

# 緑陽台認定こども園 園長だより

令和6年12月2日 緑陽台認定こども園 No.18 文責：川原

## 発表会の取り組み 頑張っています

各クラスの発表会の取り組みが始まる前、“今年の発表会はどのような形で行うか？”職員間で話し合うところから始まった令和6年度の発表会。まずは、「発表会で子どもたちにどのようなことを身につけてほしいのか？」という基本を職員間で再確認しました。昨年は、コロナが明け、コロナ前に近い形で発表会を体験させてあげたいという思いから以上児は1クラス2演目の披露としました。2演目にチャレンジしたことで「仲間意識」や「達成感」を強く味わうことができた発表会となりました。ただ、発表会の取り組みが子どもたちの負担になっていた場面があったことも反省点として挙げられました。“「仲間意識」や「達成感」は演目数と比例するものではないのではないか。”“取り組みの過程や進め方を職員が工夫することで、子どもたちの負担を軽減しながら「仲間意識」や「達成感」を味わえる発表会にすることが可能なのではないか。”という思いから、今年度は、以上児の発表演目を各クラス1演目とし、『与えられる発表会ではなく、子どもたちが主体的にかかわれる発表会』を職員の共通認識としました。

未満児クラスは、表現あそびということで生活の中で行っていることを「発表」という形に変えて行います。お遊戯やご挨拶、お名前呼びや先生との掛け合いなどクラスによって発表の形は様々です。日頃の生活の様子が伝わる発表となっていますので、お楽しみください。

以上児は劇に取り組みます。“劇はどのお話にしようか？”“言いやすいセリフは？”“セリフに合わせた身振りはどうしよう？”と、どのクラスも子どもたちとともに考えながら劇を作り上げてきました。取り組みの様子や総練習の様子を見ても、各学年の発達段階に即した発表となっていると感じられるものとなりました。

職員も「子どもたち主体の発表会」を意識した取り組みの進め方や、発表の構成・衣装・小物の準備に試行錯誤して進めてまいりました。こども園全体で発表会の成功を目指し、同じ方向を向いて頑張ってきました。協力して力を合わせて何かを成し遂げるといふ経験が、子どもたちやクラス集団の成長につながっていくことを期待しています。



## ご協力ありがとうございます。

12月より新しいシステムの導入が始まりました。初日、登降園タブレットでは、これまでの表示と異なることから戸惑われる姿もあったようですが、大きな混乱なく利用していただけました。欠席連絡についてもおおむね順調に利用いただけています。ご対応ありがとうございます。

新システムではご兄弟の登降園は一緒に登録が可能です。ご兄弟別の時間で打刻をされる場合は、登降園画面の「兄弟まとめて登園（降園）する」をタップして☑を外していただくと個別での打刻ができます。

新しいシステムの導入に合わせて、職員の業務のICT化も進めさせていただくことになりました。タブレットを利用し、園児の欠席確認をおこなったり、職員間の連絡事項の共有をおこなったりしていきます。保育時間内に職員がタブレット操作を行う姿もあるかと思いますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。